

国際儀礼の基本講座 ～その23～

平成23年12月
地方連携推進室 杉田明子

Q 外国の慶事や弔事に着用する服装について、どのような留意点がありますか。

A 【ワンポイント・アドバイス】

外国の慶事や弔事でどのような服装が相応しいかについては、それぞれの国や地域の習慣、参列する行事の性格などを確認することが最も重要です。欧米諸国の一般的な習慣としては、慶事では男性はビジネススーツ（色は自由）と華やかな色のネクタイを、弔事ではビジネススーツ（地味な色合い）と黒または地味な色のネクタイを着用します。また女性は、慶事ではデイドレス（色は自由ですが、婚礼では白一色を避けるように、また喪の色である黒一色を避けるようにします）、弔事では地味な色合いのデイドレスを着用します。（注）

（注）「デイドレス」については、2010年3月号の「グローバル通信」を参照してください。



【解説】

外国の慶事や弔事でどのような服装が相応しいかについては、それぞれの国や地域の習慣、参列する行事の性格などを確認することが最も重要です。一般的な欧米諸国での習慣については以下の通りです。

1. 外国の慶事の服装

外国の慶事の服装は、特別な服装指定があればそれに従いますが、指定が無い場合は、男性はビジネススーツ（色は自由ですが、ややあらたまった席では

ダークスーツとします)、シャツの色は自由、ネクタイは華やかな色合いのものを着用します。パールグレーやシルバーのネクタイを1本持っているとう重宝します。

また、女性は、デイドレスを着用しますが、婚礼では花嫁と競合する白一色を避けるとともに、喪の色である黒一色を避ける(黒一色のドレスには華やかな色のスカーフやコサージュなどの小物をアクセントに付ける)ことが望ましいとされています。

2. 外国の弔事の服装

外国の弔事の服装は、特別な服装指定があればそれに従いますが、指定がない場合は、男性は地味な色合いのビジネススーツ(光沢のある素材を避ける)、シャツは白無地、ネクタイは黒またはダークグレーの無地などの地味な色合いのものを着用します。近親者の葬儀の場合であれば、黒いネクタイが適当です。

また、女性は地味なデザインと色合いのデイドレスを着用し、ハンドバッグなどの小物も同色または同系列の色にすることが適当です。弔事では、デイドレスの裾は膝下丈が望ましく、胸元もあまり開いていないデザインとします。

3. ブラック・フォーマル

日本では、男性はブラック・スーツと白いネクタイ、またはブラック・スーツと黒いネクタイ(いわゆる「ブラック・フォーマル」)を、それぞれ慶事と弔事に使い分けて着用していますが、「ブラック・フォーマル」を礼服とするのはおそらく日本独自の習慣です。ただし、女性のブラック・フォーマル(黒のスーツやワンピース)は外国の弔事でも着用することが可能です。

